

二、リーベンスタインに於けるフレペール

人はこの世に偉なるもの、善なるものを齎す天才に頼つて、その異常なる賜物により天才がすべての人間の完全を結び付けることを希望します。

この不合理な要求の爲めに、天才は必ずしもその天分を人として充分に發揮してゐないといふことのために屢々誤解されたり誹謗されたりします。

私達は、天の光明が人が働かんとする原野以外の地に對してはその人に照さず、又人の心の奥底まで透入することは出来ないといふことを忘れて居ります、而して神的靈感の傍には光明によつて未だ透入されざる自然力が伴はれて居ります、このものあるがために感化されざる力が残り、人類の弱點が残つてゐるのであります。

フレペールも亦この例に漏れませんでした、而

して彼の生涯に於てのみならず、死後の今日尙且種々の不當な判断を受けさせられました、これらの判断をなした人々の中には彼がその方法を速かに實際に施さんとして遭遇したすべての障礙をも考量することなくして漫然彼の教授科目のあるものに對し彼等の所謂缺點なるものを指摘することに於ける彼の初期の生徒もありました。

新しきものは常に定住した主張とは反對に立つものであります、而して先づ新しきものが効果的であり得る前には既に陳套に墮したるものを掃ひ清めなければなりません、新思想の紹介に當つてはその代表者は己に反對する人にも物にも些の顧慮をも致してしません、而してそれがために屢々最

も親しきものをさへ手強く傷けるのであります。

フレーベルは屢々彼の友達や親族が、その意見や利福に於て、彼の思想のために必要又は最善であると思つたことを調和しないときは彼等を苦しめました、けれども茲に私達の識別しなければならぬことは人間の利福に關する事柄の健全な判断の缺乏と我利追求の目的に役立つ事柄の充分な判断の缺乏とであります、後者は多くの人間の主なる動機であります。この卑陋な我利追求は眞の天才、眞に思想を懷いて居る人の關する所ではありません、何故ならば眞の天才はこの思想の聖壇に犠として自らを横へなければなりません、彼の全生涯を通じてフレーベルは、彼の身は無論のこと彼の利福に彼に親しき者等の利福までをも彼の思想の擴充弘布のために犠牲にして更に顧みなかつたのであります、これは多少の損失をなしてフレーベルに對し不満の情を懷く人々の忘れてはならぬ點であります。

カイルハウに於てはフレーベルはこの教育的理想を實現する必要は材料を得るために實驗をなし得たに止ります、その思想は先づ幼芽の状態で彼の手握られ未だ熟するに至りませんでした、この理想を完成させる手段も同じく未だ緒に就か思かつたのであります、フレーベルは彼の考へた新形式に對する醱酵作用に於て實際の教師のすべての職務を大抵ベスタロツチ、其他の彼の先驅者以上には果し得ませんでした、それですから彼の生徒の或者達がその智識の缺陷を慨いたのも無理はありません、といふのは教授時間は過多に課された實際的勞働とカイルハウの野や森の散策のために切り詰められてゐたからであります。而かも本當を言ひますと品性と實際的能力との形式に關する所得はこれを償つて餘りあるものであります。フレーベルが彼の生徒の徳育のために如何に多く感化を及ぼしたかといふことは彼の臨終に際して多くの生徒によつて現されたる限りなき愛と感謝

の念とによつても知られるのであります、この方面に於ても彼の特別の使命が既にベスタロッチによつて正路に戻された教育の改良とふことを意味してゐるのではなく寧ろ教育全體の新しい基礎を作り、従つて教授の改革に向つて間接に更に多くの努力をなすことに在つたといふことが認められます。彼が唱へ出した兒童の天性に關する新しい眞理は教育の諸般に影響を及ぼさずにはゐませんでしたが、而してこれがためにフレーベルは彼に託された眞理の寶玉が質問され攻撃される度毎にいつも屈伏するなぞといふことは夢にもありませんでした。

けれども一面に於て彼の説の適用が彼に未だ思考されない點に觸れると彼はよく甚しく子供らしい態度で無智を表白しました、彼は斯る際にはよく「私はその事に於てその方面を未だ考へてゐませんでしたが、考へてみませう、さうかも知れませんが」とか「それは新しうございます、けれども正

しいに違ひありません、尙私達でそれを充分調べてみなければなりません」などと言ひました。彼は兒童——或はその他からさへも學ぶことを辭しませんでした——何故ならば彼は空虚を蔽ひ隠す智識の驕傲といふものを全然持つてゐなかつたからであります。

或日私が彼を訪ねると彼は眼を耀かせながら「今日はよい日です、新しいことが澤山私に來ました、大概毎朝眼が覺めるよこれは求めないのに自然に私に來ます、けれども今日はそれが殊にかいやくしく明瞭でありました、さうです、この眞理は無窮です、而していくら考へても考へても考へ盡せるものではありません」と言ひました。

彼を一貫した思想に定住させることは多くの場合甚だ困難でありました、何故ならばもし新しい思想が彼に起ると彼は屢々彼の特殊の題目をも顧みず、彼の聽從者に對して何の思慮をもなさずに何處までもそれに従つてゆきました。彼は何時も

話をしながら自分も學んで居りました、それがために彼の説く所の論理は非常に難澁でありました。それがために彼は多くの人に思想に統一がな
いと思はれました、その上彼の特別な話し振と事柄をよく分らせるために二度も三度も一つことをいふのと、語中に挿入句をするのと――すべてこれらのことが一般の人々、殊に婦人に對して彼のいふことを譯の分らぬものにしてしまひました。

リーベンスタインに於て時々、私が彼に或人を紹介しますと彼は望まれるまゝにその人に彼の方法を説明しやうとして何うしても旨く話せないとよく私の許に來て「あなたのいふことの方がよく分ります」といひながらあれこれの説明を私に要求しました。

折々「混亂してゐる」とか或はこれに似た言葉が彼の聽者の唇から漏れますが大部分の聽者は一々の言葉の中に現れてゐる深き確信の力によつて主題の眞の理解が不可能である場合に於てさへす

つかり惹き入れられて了ひます、殊に大抵の婦人は彼がその母的感情に強く訴へるときには感動させられずにはゐられませんでした。

フレーベルは私が彼の主題に深い興味を持つてゐることと私がそれを理解してゐることを信じなかつた前には彼は私を疑つて居て信じませんでした、彼は彼の思想の正しき理解の期待と彼の思想の紹介のために彼に約された援助との兩方に於て屢々裏切られたので彼は今では道樂氣の人や尻馬へ乗る人を恐れてゐました、而してこれらのものに對して高を括つてゐたのであります。たゞ私が雜誌に匿名で數回筆を執つたことと（フレーベルは是等の記事は事實以上に賞讃しました）漸々實際して行く中に私の興味の眞劍なことが彼に分るやうになつてから私はその専門に立入つて親しくされました。

私はフレーベルの教育學の原理と實際的方法に於て彼の教育法を聞かされましたが未だ彼の思想

の究竟の根柢と出發點とを知りませんでした、私は彼に彼の世界論の深遠なる基底を充分に私に披瀝してくれるやうに望みました、彼は「それはいいません、私は私の最後の言葉を私と共に墓場に持つて行くのです、その時は未だ來てゐません。」

私はこの最後の言葉を發すべき義務あることを彼に説いてみました、利目はありませんでした、公でなくても駄目でありましたが、遂に或日私の家で彼は或る古い寫本の數葉を讀んで、その記事のある本を貸してくれと頼みました。翌日私が彼に會ひに行きますと彼は「今日こそ私の最後の言葉を聞かして上げませう、私は昨夜殆んど夜を徹してあなたの本を讀んで居りました、それであなたが私のやうな考を懷いていらつしやつて私を誤解なさることはないといふことが分りました」と云ひました。

彼は他人の關聯せる思想を見出した時は彼の思想の意義に數種の理論を解釋しましたが彼は私の

思想の中に彼の思想に深き透入を容易ならしむる多少の關係ある事物の獨創的意見を見出しました而してそれを理解すべき鍵を漸々に私に與へました。彼の説明のみを以てしてはあれを成就することとは出来ませんでした、彼の説明は箴言的に過ぎて不可解でありました、長きに亙つての研究と私自身の勉とが年を経る間に何時か其處に達せしめた、而してその時に於てもその發達と完成とは尙何世紀をも要すべき思想——フレーベルが彼先驅者の手から過去の花の種子として受取り而して彼が現在にも尙幼芽の状態に残して行つたので次代の思索家及び方面を異にした思索家達もそれを時代の一般思想の要素として發達させ完成させなければならぬ思想の理解の第一歩に達したに過ぎません、現在はいゞ搖籃の兒童と幼稚園の兒童とに對する最初の實際的應用を行ひ、斯くて現在の人々が始めたことを完成せしめ得べき未來の人々のために地盤を堅めることをしなければなりません。

せん。

フレイベルの組織に適用された神祕主義の非難は彼の教育的思想の根柢に横つてゐる理論が充分に理解され科學的に確立されない範圍に於て相當の理由を持つて居ります、而してそれがためこれが速かに實際に起るであらうといふ望みはないと言つてもいい位でありました、何故ならば彼の主張の唱導者の多くはたゞその外面のみを理解し得たに止るからであります。

人類に最も深い關係のあるこの問題の解決が現はれ得る前に現在の鬭争は現代の諸問題をその解決に近からしめなければなりません、フレイベルは彼と同時代の人々の中に彼の思想を理解してゐる人の少かつたにも拘らず彼は斯る時の來るべきことを固く信じて居りました。ある時私がその進歩の鈍く且つ不完全なことを慨きますと彼は「私が死んで三百年の後、私の教育法がその理想通りに充分に確立されるならば私は天に於て悦び

ます」と言ひました。

フレイベルは彼の最後の日の安息所をリートベンスタインに見出しました、大都會の住居は彼に取つては何時も煩はしく且つ惱ましくありました。

「私は田園生活をなして自然と親しむやうに生れ附いてゐます」と彼は染々と述べたことがあります、彼は大なる世界の國語を理解しませんでした、文學的の教養は先天的の能力と専門によつて彼の自教的な獨創的な思想の傾向には關係のないものでありました、而して彼は科學のあれこれの目的を論議するには不適當でありました、しかしそれよりも尙彼が不適當であつたのは大都會で彼が出會つた奸策や俗悪や悪意と戰ふことでありました、乃でリートベンスタインの近くの百姓家に住居を定めるやうになつた時彼はそれらから逃れたことを悦びました、彼はその前の冬ドレスデンで保婦の教育に従事してゐたのであります。

此地で彼は再びチューリンギヤの懐かしい空氣

と美しい自然とに取圍まれて何時も親しく愉快にこれらと交つて居りました、而して彼に依頼せざる受容的な若い研究者等は主題に對する不完全な智識から反對する等のことなしに彼に彼の教育法を述ぶべき機會を與へたのであります——而して彼の講義に出席した者は誰でも彼を勵ました幸福が如何に彼の生徒の熱心に反映したかを認めたに違ひありません。

マイニンゲンとワイマールの公子達、殊に度々フレーベルの學校へお伴ひ申上げた私の保護者であり友人であるワイマールのイダ女公が彼の主張に興味を持たれたことは彼の勇氣を新にしました、私はフレーベルが彼の主張のために希望したことを澤山この仁慈にして優渥なる公女に取成さなければなりませんでした、この公女のお蔭でフレーベルは彼の學校のために適當な場所を得ることが出来ました。

或時私が彼と共にリーベンスタインの附近を散

歩いてゐた時に緑の原の中に大變都合よく位置してゐるマリエンタールの小さな城に出會ひました、フレーベルは靜に立停つて「あたりの様子を御覽なさい、マンホルツさん、こゝは私達の學校にするといふ所になりますよ、而して名前も至極詭向きではありませんか——マリエンタール、マリヤの谷、救世主を育て上げたマリヤ、人類全體の母と仰ぎたいそのマリヤの谷なのです」と言ひました。私は彼にその城の持主なる君公に不用になつてゐる建物を借りたいと懇願するやうに又私はイダ女公を通じてそれを借りることが出来るやうに彼に盡力させようと言ひました。斯くて役人が種々反對したので大變長くはかかりましたが兎も角それは彼の手に入る事になりました、女公がその兄君に附きつきりで願つて下さつたのでこの目的は數月ならずして達せられた譯なのであります。私はもう殆んど斷念したフレーベルに愈々公的に許可が出たといふことを知らして喜ばせてや

りました。この事が早く進んだに就ては女公がフ
レーベルの住つてゐる百姓家の如何に都合が悪い
かといふことを明かに御承知になる機會があつた
のであります。

フレーベルは私と共に女公から食事のお招きを
受けたことがあります、その時フレーベルは牛小
屋に隣つてゐる押入に長く藏つて置いた上衣を着
て行きました、所がこの上衣に牛小屋の匂ひがす
つかり浸込でゐました、教室の小窓が牛小屋の
方に開いてゐてその匂ひが教室にも流れ込むため
にこの匂ひに馴れてしまつてゐるフレーベルは少
しもそれに氣が付きませんでした、けれども女公
は食室へ入つていらつしやると同時にその匂ひを
お嗅ぎ附けになりました、匂ひは外から窓を通し
て入つて來るのであらうと思はれたので女公は窓
を閉ぢられました、しかし匂ひは依然として殘つ
て居ります、小さな聲で臭いわけをお話すると女
公は大相面白がられました、女公の若き姫達も同

じやうに笑ひ興せられました。私達の上機嫌の原
因を彼に話した時に彼は心から話に身を入れて
「我が學校をマリエンタールに移轉することの如
何に急務であるかはお分りになりました。ござい
ませう」と言ひました。

食事が濟んで後當時儲君に擬せられてゐた現在
のワイマール太公が夫人と數人の貴婦人と紳士と
を伴うて女公を訪られました、而してフレーベ
ルにはこのお歴々の方々の前で彼の思想を述べ
やうに要求されました、私は彼に要を摘んで明瞭
に簡單にお話するやうにと頼みました、それで私
は彼が例になく成功したので驚かされました、眞
實彼はすべての彼の聽者を感動させるやうに熱心
に話しました、度々リーベンスタインに赴かれる
中に既に私からフレーベルの主張を耳にされたと
のある、而して彼の學校に於て兒童の遊戯に出席
されたことのある太公はフレーベルの不明瞭な話
振に就て懐いて居られた前々からの非難を取消さ

れました。太公は「彼は豫言者のやうに話をする」と言はれました、この承認の表白は甚しくフレibelを悦ばせました、彼は私に「あなたは私が今日どんなに悦んでゐるかを知つてゐますか、あの食堂の建築の美しい調和よ、私は丁度殿堂の中にあるやうな心持がしてゐました」と言ひました。

拱形なみの天井を支へてゐる大理石の柱は彼の美術的の眼に印銘を興へました、私は常に未だ嘗つて美術的の修練を経てゐないフレibelの中にこの調和と美に對する感情を認めました。自然に於ける何物も彼を逃れませんでした、周圍の國を飾るすべての木、すべての美しい曲線、すべての色の混和、すべての空の會ひ、まこと美と調和を現すすべてのものは彼によつて認められました、而して學生と共に散歩する際には屢々自然の深き解釋と神の創造の熱烈なる賞讃とに役立ちました。これらの解釋や賞讃は學生簿に忘るやからざる深い印銘を興へました、けれども一面に於て調

和が少しでも缺けて居ると彼は苦にしました。

或時すべての色がぢぢや／＼に入り混つてゐるダリヤの花壇を見て歩いてゐると彼は「私は此所に色の調和を見ることが出来ません」と言ひました。

この感覺の鋭さと細やかさとは彼のすべての器官に及んで居りました。遠くから彼は植物と食品と酒との匂ひを嗅ぎ分けました。私はこれを彼が生れ付き神に課されたる使命を果すべくあらゆる點に於て如何によく適して居るかといふことの證據として見て居りました。彼に拒まれた話し方の巧みさと文學的表現の缺乏さへもこの目的のために共働したのであります。たとへば彼が言葉を以て充分に彼自身を他人に理解させることが出来やうとも彼は文字を以て充分に彼の思想を現し得やうとは思はれません。或る一方に懈すること及び感法範圍に踰越するといふことは天才をしてその使命の中に停らしめて他に逸せざらしめぬために必

要なことであります。普遍的の天才といふものは
尠いものであります、而してフレーベルも決して
普遍的の天才ではなかつたのであります。この否
定し難き豫言的の天稟を有するにも拘らずしてフ
レーベルは彼の仕事に關係のない彼の友人に對し
て温い心を懷いて居りました、而して彼が彼の思
想に無慾の態度を以て事へたと同じやうに利害を
忘れて何處までも彼等を助けやうとしました。

ミツテンドルフは私にこの小逸話を話しました
フレーベルが或日附近を散歩して歸つて來て大層
暑がつて衣服を着換へたいと言ひました、彼の夫
人は衣裳部屋を開けると驚いて「押入は殆んど空
虚です、盜賊が入つたのでせう」と叫びますとフ
レーベルは「盜賊は私さ」と笑ひながら答へまし
た、而してその時彼は妻に火事に遭つた近所の村
の人がその朝彼の許へ來て救うてくれと言つたの
でその時金を持合せなかつた彼は彼の所有物を彼
等に與へなくつては濟まないやうに感じたのであ

ると話しました。この温い心は屢々熱心に働き内
的に働く人々によくあるやうに無愛想な粗雑な外
面の下に隠されて居りました。子供はこれを少し
も苦にしませんでした、而して自分達を愛してく
れる人の心を直感によつて知りました。私がフレ
ーベルと共に村の路を歩いてゐますと家の中にあ
つた子供は自分達の父の許へ走り寄るやうに入口か
ら駆けて出て來ました。やつとよと／＼歩ける位
の小さな子供も彼に縋り付いてしばらく彼と共に
歩いて行くのであります。如何なる愛を以て彼は
子供等を抱擁するのでありませうか、愛は彼の眼
から輝きマグネットのやうに子供等を惹きつける
のであります、それは人間（彼は人間の幼芽を
子供に見ました）の愛でありました、斯る時に彼
の發する「私は各の子供の中に完き人の可能性を
見ます」といふ言葉は私に不滅の印銘を與へまし
た。

マリエンタールに於てしばらくの間フレーベル

の幼稚園に出席して屢々フレールと一緒にゐた二人の子供の母親がリーベンスタインの住居を引き拂ふに當つて暇乞ひに來たのを見ました、二人の子供の内、五才になる方の子はフレールの首筋に噛付いて泣きながら行かうともしませんでした、その子は平常非常に母親を慕うてゐたのですが母親がそれではお前だけ此所に残つてゐてもいゝといふと大層悦びました、多分その子の精神的要求と智識的要求とが此所に於て始めて充分に充たされたからであります、而してその子は多分すべての發達が人間の心に齎す満足を感じてゐたのであります。